

# ジュゴンのおすむ沖縄の海を守る



↑沖縄県宜野湾市で開かれた、辺野古への新基地建設と県内移設に反対する県民大会に2万1000人が参加。→最前列に陣取る辺野古の住民ら（11月8日）。



1996年に日本に返還することで日米両政府が合意した米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）を、同じ沖縄県内の辺野古沿岸域（名護市）に移設する計画に、沖縄の人々は猛反対しています。

世論調査では沖縄県民の約7割が、普天間基地の県外・国外への移設を求めています。辺野古新基地建設に反対する沖縄県民の意思は、97年の名護市民投票、08年の県議会決議、そして、今年8月の総選挙では県内4小選挙区すべてで新基地に反対する候補者が当選したことを見ても、明確に示されています。

国土面積の0.6%にすぎない小さな島・沖縄に、今なお全国の米軍基地の4分の3が集中し、その面積は沖縄本島の2割弱を占めています。国の天然記念物で絶滅危惧（きぐ）種のジュゴンがすむ豊かな恵みの海

を埋め立て、日本国民の納めたばく大な税金を使ってまでして、今の普天間基地よりもさらに強化された新基地を造る必要はありません。

また、04年に沖縄国際大学にヘリが墜落炎上する事故が起きるなど、街のど真ん中にある普天間基地は米軍も「世界一危険」と認めた基地です。住民の安心・安全を確保するため、1日も早く返還させなければなりません。

社民党は、政府が沖縄県民の民意にこたえて、普天間基地の即時閉鎖・返還、県外・国外への移設を実現することを求めます。

辺野古に新たな基地を造る計画中止し  
普天間基地は沖縄県外・国外に移設を。

# 社民党